

「池田分かち合いの会・ひかり」

発行責任者：植村ヨシ子 編集：京井幹男 発行日 2022年1月 No. 3

豊中夢基金 杉山春講演会「自死は向き合える」主催：池田分かち合いの会・ひかり

★日時：2022年6月18日（土）午後2時 ★場所：豊中商工会議所 ★参加費：無料
自死、虐待を扱っておられる。NHK朝の番組にも出演。

著書 『自死は、向き合える』遺族を支える，社会で防ぐ（岩波ブックレット）
『ネグレクト—育児放棄 真奈ちゃんはなぜ死んだか』（小学館ノンフィクション賞受賞）
『児童虐待から考える』社会は家族に何を強いてきたか（朝日新聞出版）

「池田分かち合いの会・ひかり」の理念

- 自死に対する差別・偏見をなくし、明るく楽しく生きれる社会づくり。
- 啓蒙・啓発活動—自死は他人ごとではなく自分の問題としてとらえるきっかけづくりによって、社会の認識を高める。
- 苦悩をやわらげる居場所づくり。
「話す→放す→離す」ことにより「自分で気づく」



池田分かち合いの会・ひかり in 豊中（定例会・毎月第二土曜日）

池田分かち合いの会・ひかり in 池田（定例会・毎月第三土曜日）

いずれも午後2時から・事前申込み不要・参加費無料

問い合わせ先：植村ヨシ子（代表） 電話080-3858-2954

みんなで話そう

いきいきと生きられたら

天災や事故による外傷や身体
の病氣と違い、心の中は見えに
くい。兄は自ら命を絶った。現
象としては認めざるを得ない。
電車の線路上に屈みこんだ彼を
見た人がいると聞かされたから
だ。

「つらいけど頑張ってるね」「で
もね、これも寿命よ」、親戚や
友人は言った。自死遺族となっ
た私に、自死者を非難するよう
なことを直接言う人はこれまで
いなかった。しかし、ときに不
意に、自死に関する若男女に
よるあけすけな見解が耳目に触
れる。「命を投げ打つ気なら何
でもできるのに」、「生きたいの
に、重病にかかり、涙を呑みつ
つくなる人もいるのに、自ら

そうしたくて逝ったのだ」と
いった認識。

しかし、考えていただきたい。
「心の病がもたらす苦しみに耐
え続けるか」、「さもないれば自
死するか」、こんな酷な二者択
一があるだろうか。その二択し
かないと信じ込んでしまった人
が、痛ましくも後者を選んだ場
合に、「死にたくて死んだ」と
いう評価は人に優しくないので
ならず、医学の主な目的が治療
だとすれば非科学的だとさえ言
えるのではないか。

「心も身体も健やかで、いき
いきと生きられる」という選択
肢が仮に見出せたら、自死した
人たちの大半は、それを選んだ
はずなのだ。

（たくや）

